

ドイツ語の文法について

—格支配による動詞分類の試み—

小 林 繁 吉*

Grammatik im Deutschen für den Anfängerkurs

—Kasus- und Präpositionalkasusreaktion der Verben—

Shigekichi KOBAYASHI*

Abstract

In diesem Aufsatz handelt es sich um Kasus- und Präpositionalkasusreaktion der Verben in der Grammatik im Deutschen für Anfängerkurse, an denen hauptsächlich Studentinnen und Studenten der japanischen Universität teilnehmen, um die deutsche Sprache zu lernen. Die oben gesagten Typen der Kasusreaktion sind besonders in den nächsten Punkten zu diskutieren. Das heißt:

1. Nonkasusreaktion der Verben
2. Monokasusreaktion der Verben I : Nonpräpositionalmonokasusreaktion
3. Monokasusreaktion der Verben II : Präpositionalmonokasusreaktion
4. Dualkasusreaktion der Verben I : Nonpräpositionaldualkasusreaktion
5. Dualkasusreaktion der Verben II : Präpositionaldualkasusreaktion

Neue Tabellen der schon erwähnten grammatischen Punkte könnten für die Grundstufe des grammatischen Sprachkurses im Deutschen nützlich sein.

Keywords : Verb, Kasus, Reaktion, präpositional, Objekt

はじめに

この論文では、初級ドイツ語の文法の学習者にとって理解しにくいと言われているドイツ語基礎文法の文法項目のうち、特に、動詞の格支配について考察し、¹⁾ 従来の文法とは異なる考え方を出発点に、初学者にも学びやすい形での、より簡便なドイツ語文法項目の提示を目指して、動詞の格支配による新しい動詞の分類の

考案を試みたものである。²⁾ これまでも、前置詞の格支配に関しては、文法項目の見直し作業を行い、その考察結果を発表し、授業にもそれを活用してきたが、³⁾ 今回は、新しい〈動詞の格支配による動詞の分類表〉を提示し、⁴⁾ それで、初級基礎段階から中級段階への橋渡しとなりうる文法学習の要をなすものであることを示してみたいと考えている。⁵⁾ それでは、以下に挙げる五つの項目に分けて論述していきたい。

平成 21 年 12 月 14 日受理

* 基礎教育研究センター・教授

1. 無格支配の動詞

無格支配の動詞とは、⁶⁾ 2格目的語、3格目的語、4格目的語、前置詞格目的語のいずれも支配しない動詞のことである。

1-1 無格支配の一般動詞（人称動詞中心）

無格支配の動詞には、主語プラス動詞、主語プラス動詞プラス補語など、S+V、S+V+Cの文型で表される人称動詞中心の独立した一般動詞群が属している。また、sein, werden, bleiben, heißen もこのタイプの動詞である。以下に該当する三例を挙げる。⁷⁾

Er lacht.
Sabine ist gesund.
Ich bin Student.

1-2 無格支配の再帰動詞

再帰動詞については、再帰代名詞を2格目的語、4格目的語と見なさず、述語（動詞プラス再帰代名詞）の一部として扱うので、再帰代名詞だけを目的語とする再帰動詞は、目的語がない動詞、すなわち無格支配の動詞ということになる。⁸⁾ 以下に該当する再帰動詞を三例を挙げる。

Er spottet seiner selbst. 〈2格の再帰代名詞〉
Sie setzt sich. 〈4格の再帰代名詞〉⁹⁾
Ich erkälte mich. 〈4格の再帰代名詞〉

ほかに、sich⁴ beeilen, sich⁴ ereignen, sich⁴ vor|stellen などの動詞が属している。¹⁰⁾

1-3 無格支配の非人称動詞

目的語をもたない非人称動詞がこのタイプに属する。以下に該当する非人称動詞を五例挙げる。

Es regnet.
Es schneit.
Es ist kalt.

Es klingelt.
Es wird Sommer.

2. 単格支配の動詞 I（非前置詞格支配の動詞）

単格支配の動詞とは、2格目的語、3格目的語、4格目的語、前置詞格目的語のうちの一つだけを支配する動詞である。

2-1 非前置詞格支配で単格支配の一般動詞（人称動詞中心）

2格目的語だけを支配する動詞、3格目的語だけを支配する動詞、4格目的語だけを支配する動詞がこのタイプの動詞である。

2-1-1 2格支配の動詞

2格目的語のみを支配する動詞で、以下に該当する動詞を一例挙げる。

Ich gedenke seiner. ¹¹⁾

2-1-2 3格支配の動詞

3格目的語のみを支配する動詞で、以下に該当する動詞を三例挙げる。

Ich helfe ihm.
Das gefällt mir gut. ¹²⁾
Er droht dir.

2-1-3 4格支配の動詞

4格目的語のみを支配する動詞で、多数の動詞がこのタイプに属する。ドイツ語では、2格目的語と3格目的語と前置詞格目的語を支配する動詞が自動詞と呼ばれるのに対して、4格目的語を支配する動詞は他動詞と呼ばれる。以下に該当する動詞を三例挙げる。

Wir nehmen den Bus.
Sie liest das Buch.
Ich lerne Deutsch.

2-2 非前置詞格支配で単格支配の再帰動詞
2 格目的語だけを支配する再帰動詞、3 格目的語だけを支配する再帰動詞、4 格目的語だけを支配する再帰動詞がこのタイプの動詞である。

2-2-1 2 格支配の再帰動詞
Du nimmst dich des Kindes an.

sich⁴ 2 格 an|nehmen のケースである。

2-2-2 3 格支配の再帰動詞
Wir nähern uns dem Ziel.
Er widmet sich seinem Studium.

sich⁴ 3 格 nähern と sich⁴ 3 格 widmen のケースである。

2-2-3 4 格支配の再帰動詞
Sie getraut sich den Schritt.
Ich nehme mir eine Reise vor.
sich³ 4 格 getrauen と sich³ 4 格 vor|nehmen のケースである。

2-3 非前置詞格支配で単格支配の非人称動詞
3 格目的語だけを支配する非人称動詞、4 格目的語だけを支配する非人称動詞がこのタイプの動詞である。2 格目的語だけを支配する非人称動詞はないので、この二種類である。

2-3-1 3 格支配の非人称動詞
Es ist mir kalt.¹³⁾
Wie geht es Ihnen? Es geht mir gut.
Es fällt mir ein.

四つの文の mir と Ihnen が 3 格 となっているケースである。

2-3-2 4 格支配の非人称動詞
Es friert mich.
Es gibt einen Gott.
の mich と einen Gott が 4 格 となっているケースである。

3. 単格支配の動詞Ⅱ (前置詞格支配の動詞)
前置詞格目的語¹⁴⁾のみ支配する動詞で、3-1、3-2、3-3 の三種の動詞がある。

3-1 前置詞格支配で単格支配の一般動詞 (人称動詞中心)
3-1-1 一個の前置詞とのみ結び付く前置詞格支配の動詞

Ich warte auf einen Brief.
の auf 4 格 warten のケースである。¹⁵⁾
3-1-2 二個の前置詞と選択的に結び付く前置詞格支配の動詞

Er leidet an einer Krankheit.
Sie leidet unter ihrer Einsamkeit.
の an 3 格 leiden と unter 3 格 leiden のケースである。¹⁶⁾

3-1-3 三個の前置詞と選択的に結び付く前置詞格支配の動詞
Wasser besteht aus Wasserstoff und Sauerstoff.
Worin besteht der Unterschied?

Sie besteht auf ihrem Recht.

の aus [3 格] bestehen, in [3 格] bestehen, auf [3 格] bestehen のケースである。¹⁷⁾

3-2 前置詞格支配で単格支配の再帰動詞

Sie sehnt sich nach Hause.
Ich verlasse mich auf dich.

の sich⁴ nach [3 格] sehnen と sich⁴ auf [4 格] verlassen のケースである。¹⁸⁾

3-3 前置詞格支配で単格支配の非人称動詞¹⁹⁾

Es riecht nach Fisch.
Es zuckt um seine Augen.

の nach [3 格] riechen と um [4 格] zucken のケースである。

4. 両格支配の動詞 I (非前置詞格支配の動詞)

両格支配の動詞とは、2 格目的語と 4 格目的語、3 格目的語と 4 格目的語、4 格目的語と 4 格目的語、3 格目的語と前置詞格目的語、4 格目的語と前置詞格目的語、前置詞格目的語と前置詞格目的語というように、常態では、二つの目的語を支配する動詞である。非前置詞格支配の三種の動詞と前置詞格支配の三種の動詞の二つに大別される。²⁰⁾ ただし、非前置詞格支配で両格支配の動詞には、再帰動詞と非人称動詞は含まれないので、非前置詞格支配で両格支配の一般動詞（人称動詞中心）だけがある。

4-1 非前置詞格支配で両格支配の一般動詞（人称動詞中心）

2 格目的語と 4 格目的語の両方を支配する動詞、3 格目的語と 4 格目的語の両方を支配する動詞、4 格目的語と 4 格目的語の両方を支配す

る動詞がこのタイプの動詞である。

4-1-1 2 格と 4 格支配の動詞

2 格目的語と 4 格目的語の両方を支配する動詞で、以下に該当する動詞を二例挙げる。

Der Staatsanwalt klagt den Mann des Diebstahls an.
Ich versichere sie meines Schutzes.

4-1-2 3 格と 4 格支配の動詞

3 格目的語と 4 格目的語の両方を支配する動詞で、多数の動詞がこのタイプに属する。以下に該当する動詞を三例挙げる。

Sie gibt ihrer Tochter Geld.
Er schenkt seinem Freund ein Bild.
Der Fußgänger zeigt mir den Weg.

4-1-3 4 格と 4 格支配の動詞

4 格目的語と 4 格目的語の両方を支配する動詞で、以下に該当する動詞を三例挙げる。²¹⁾

Sie lehrt ihn Deutsch.
Die Arbeit kostet mich einen Tag.
Man nennt ihn einen Narren.

4-2 非前置詞格支配で両格支配の再帰動詞（なし）

既に述べたように両格支配の動詞 I に属する再帰動詞は存在しない。

4-3 非前置詞格支配で両格支配の非人称動詞（なし）

既に述べたように両格支配の動詞 I に属する非人称動詞は存在しない。

5. 両格支配の動詞Ⅱ (前置詞格支配の動詞)

両格支配の動詞Ⅱは、3格目的語と前置詞格目的語、4格目的語と前置詞格目的語、前置詞格目的語と前置詞格目的語(二つの前置詞格目的語)というように、常態では、二つの目的語を支配する動詞である。2格目的語と前置詞格目的語を支配する動詞はないので、以上の三種となる。

5-1 前置詞格支配で両格支配の一般動詞 (人称動詞中心)

3格目的語と前置詞格目的語の両方を支配する動詞、4格目的語と前置詞格目的語の両方を支配する動詞、前置詞格目的語と前置詞格目的語、すなわち、二つの前置詞格目的語の双方を支配する動詞がこのタイプの動詞である。

5-1-1 3格と前置詞格支配の動詞

3格目的語と前置詞格目的語の両方を支配する動詞である。

Ich danke Ihnen für Ihre Freundlichkeit.

の 3格 für 4格 danken のケースである。

5-1-2 4格と前置詞格支配の動詞

4格目的語と前置詞格目的語の両方を支配する動詞である。

Ich frage sie nach dem Weg.

Er bittet mich um Rat.

の 4格 nach 3格 fragen と 4格 um 4格 bitten のケースである。

5-1-3 前置詞格と前置詞格(二つの前置詞格)支配の動詞

前置詞格目的語と前置詞格目的語、すなわち、二つの前置詞格目的語を支配する動詞である。

Die Spieler wetten mit dem Trainer um eine Flasche Sekt.

の mit 3格 um 4格 wetten のケースである。

5-2 前置詞格支配で両格支配の再帰動詞

前置詞格目的語と前置詞格目的語、すなわち、二つの前置詞格目的語の双方を支配する再帰動詞のみがこのタイプの動詞である。3格目的語と前置詞格目的語の両方を支配する再帰動詞および4格目的語と前置詞格目的語の両方を支配する動詞はないので、この一種だけとなる。

5-2-1 前置詞格と前置詞格(二つの前置詞格)支配の再帰動詞

Er bedankt sich bei ihr für das Geschenk.

Ich unterhalte mich mit ihm über das Konzert.

の sich⁴ bei 3格 für 4格 bedanken と sich⁴ mit 3格 über 4格 unterhalten のケースである。²²⁾

5-2-2 両格支配の再帰動詞

したがって、両格支配の再帰動詞は、5-2-1の前置詞格と前置詞格(二つの前置詞格)支配の再帰動詞一種のみである。

5-3 前置詞格支配で両格支配の非人称動詞

3格目的語と前置詞格目的語の両方を支配する非人称動詞および4格目的語と前置詞格目的語の両方を支配する非人称動詞の二つがこのタイプの動詞に属する。前置詞格と前置詞格(二つの前置詞格)支配の非人称動詞は、5-3タイプの動詞にはない。

5-3-1 3格と前置詞格支配の非人称動詞

Es graut mir vor der Prüfung.

の [3 格] vor [3 格] grauen のケースである。²³⁾

5-3-2 4 格と前置詞格支配の非人称動詞

Es juckt mich auf dem Rücken.

Es ärgert mich über ihn.

の [4 格] auf [3 格] jucken と [4 格] über [4 格] ärgern のケースである。²⁴⁾

5-3-3 両格支配の非人称動詞

したがって、両格支配の非人称動詞は、5-3-1 の 3 格と前置詞格支配の非人称動詞および 5-3-2 の 4 格と前置詞格支配の非人称動詞の二種類のみである。

おわりに

[表 1] [表 2] [表 3] [表 4] [表 5] では、ドイツ語の動詞を格支配という観点から統一して考察し、格支配による動詞の分類という文法の枠組みの新しい考え方を提示している。

表 1

動詞の格支配による分類 I	
1. 無格支配の動詞	
1-1 無格支配の一般動詞 (人称動詞中心)	3-1-2 二個の前置詞と選択的に結び付く前置詞格支配の動詞
1-2 無格支配の再帰動詞	3-1-3 三個の前置詞と選択的に結び付く前置詞格支配の動詞
1-3 無格支配の非人称動詞	3-2 前置詞格支配で単格支配の再帰動詞
	3-3 前置詞格支配で単格支配の非人称動詞
2. 単格支配の動詞 I (非前置詞格支配の動詞)	
2-1 非前置詞格支配で単格支配の一般動詞 (人称動詞中心)	4. 両格支配の動詞 I (非前置詞格支配の動詞)
2-1-1 2 格支配の動詞	4-1 非前置詞格支配で両格支配の一般動詞 (人称動詞中心)
2-1-2 3 格支配の動詞	4-1-1 2 格と 4 格支配の動詞
2-1-3 4 格支配の動詞	4-1-2 3 格と 4 格支配の動詞
2-2 非前置詞格支配で単格支配の再帰動詞	4-1-3 4 格と 4 格支配の動詞
2-2-1 2 格支配の再帰動詞	5. 両格支配の動詞 II (前置詞格支配の動詞)
2-2-2 3 格支配の再帰動詞	5-1 前置詞格支配で両格支配の一般動詞 (人称動詞中心)
2-2-3 4 格支配の再帰動詞	5-1-1 3 格と前置詞格支配の動詞
2-3 非前置詞格支配で単格支配の非人称動詞	5-1-2 4 格と前置詞格支配の動詞
2-3-1 3 格支配の非人称動詞	5-1-3 前置詞格と前置詞格 (二つの前置詞格) 支配の動詞
2-3-2 4 格支配の非人称動詞	5-2 前置詞格支配で両格支配の再帰動詞
3. 単格支配の動詞 II (前置詞格支配の動詞)	
3-1 前置詞格支配で単格支配の一般動詞 (人称動詞中心)	5-2-1 前置詞格と前置詞格 (二つの前置詞格) 支配の再帰動詞
3-1-1 一個の前置詞とのみ結び付く前置詞格支配の動詞	5-3 前置詞格支配で両格支配の非人称動詞
	5-3-1 3 格と前置詞格支配の非人称動詞
	5-3-2 4 格と前置詞格支配の非人称動詞

ドイツ語の文法について—格支配による動詞分類の試み—（小林）

表 2

動詞の格支配による分類Ⅱ					
動詞	支配	格支配	一般動詞（人 称動詞中心）	再帰動詞	非人称動詞
無格支配の動詞	無格支配	無格支配	○	○	○
単格支配の動詞	非前置詞格支配	2 格支配	○	○	×
		3 格支配	○	○	○
		4 格支配	○	○	○
	前置詞格支配	前置詞格支配	○	○	○
両格支配の動詞	非前置詞格支配	2 格と 4 格支配	○	×	×
		3 格と 4 格支配	○	×	×
		4 格と 4 格支配	○	×	×
	前置詞格支配	3 格と前置詞格支配	○	×	○
		4 格と前置詞格支配	○	×	○
		前置詞格と前置詞格支配	○	○	×

記号の説明：○〈あり〉；×〈なし〉

表 3

動詞の格支配による分類表					
動詞	支配	格支配	一般動詞（人称動詞中心）の例	再帰動詞の例	非人称動詞の例
無格支配の動詞	無格支配	無格支配	lachen sein werden	seiner spotten sich erkälten	Es regnet. Es ist kalt.
単格支配の動詞	非前置詞格支配	2 格支配	gedenken	sich et annehmen	なし
		3 格支配	helfen gefallen drohen	sich et nähern	Es ist mir kalt.
		4 格支配	nehmen lesen など多数	sich et getrauen	Es friert mich.
	前置詞格支配	前置詞格支配	warten auf leiden an/unter bestehen auf/aus/in	sich auf verlassen sich nach sehnen	Es riecht nach Fisch.
両格支配の動詞	非前置詞格支配	2 格と 4 格支配	anklagen versichern	なし	なし
		3 格と 4 格支配	geben schenken など多数	なし	なし
		4 格と 4 格支配	lehren kosten nennen	なし	なし
	前置詞格支配	3 格と前置詞格支配	jn für et danken	なし	Es graut mir vor
		4 格と前置詞格支配	jn nach et fragen jn um et bitten	なし	Es ärgert mich über
		前置詞格と前置詞格支配	mit jm um et wetten	sich bei jm für et bedanken	なし

表 4

動詞の格支配による分類図																	
動 詞																	
無格支配の動詞			単格支配の動詞									両格支配の動詞					
			非前置詞格支配の動詞						前置詞格支配の動詞			非前置詞格支配の動詞			前置詞格支配の動詞		
			2 格支配		3 格支配			4 格支配			前置詞格支配	2 格と 4 格	3 格と 4 格	4 格と 4 格	3 格と前置詞格	4 格と前置詞格	前置詞格と前置詞格
一般動詞	再帰動詞	非人称動詞	一般動詞	再帰動詞	一般動詞	再帰動詞	非人称動詞	一般動詞	再帰動詞	非人称動詞	一般動詞	再帰動詞	非人称動詞	一般動詞	再帰動詞	非人称動詞	一般動詞

表 5

動詞の格支配による 5 文型表示	
(1) $[S+V]$	無格支配の動詞
(2) $[S+V+O_k]$	単格支配の動詞 I
(3) $[S+V+O_p]$	単格支配の動詞 II
(4) $[S+V+O_k+O_4]$	両格支配の動詞 I
(5) $[S+V+O_k/O_p+O_p]$	両格支配の動詞 II
(1) S+V	S : Subjekt 主語
(2) S+V+O _k	V : Verb 動詞
① S+V+O ₂	O _k : Kasusobjekt
② S+V+O ₃	2・3・4 格目的語
③ S+V+O ₄	
(3) S+V+O _p	O _p : Präpositionalobjekt 前置詞格目的語
(4) S+V+O _k +O ₄	O ₂ : Genitivobjekt 2 格目的語
① S+V+O ₂ +O ₄	
② S+V+O ₃ +O ₄	O ₃ : Dativobjekt 3 格目的語
③ S+V+O ₄ +O ₄	
(5) S+V+O _k /O _p +O _p	O ₄ : Akkusativobjekt 4 格目的語
① S+V+O ₃ +O _p	
② S+V+O ₄ +O _p	
③ S+V+O _p +O _p	

まとめ

以上論述してきたことを総括すると以下のようになる。

動詞の格支配による分類

1. 無格支配の動詞

- (1) 一般動詞（人称動詞中心）
- (2) 再帰動詞
- (3) 非人称動詞

2. 単格支配の動詞

2-1 非前置詞格支配で単格支配の動詞

- (1) 2 格支配
- (2) 3 格支配
- (3) 4 格支配

2-2 前置詞格支配で単格支配の動詞

- (4) 前置詞格支配

3. 両格支配の動詞

3-1 非前置詞格支配の動詞で両格支配の動詞

- (1) 2 格と 4 格を支配
- (2) 3 格と 4 格を支配
- (3) 4 格と 4 格を支配

3-2 前置詞格支配の動詞で両格支配の動詞

- (4) 3 格と前置詞格を支配
- (5) 4 格と前置詞格を支配
- (6) 前置詞格と前置詞格 (二つの前置詞格) を支配

表 1 : 動詞の格支配による分類 I

表 2 : 動詞の格支配による分類 II

表 3 : 動詞の格支配による分類表

表 4 : 動詞の格支配による分類図

表 5 : 動詞の格支配による 5 文型表示

以上、動詞の格支配という文法項目提示の可能性を追求して得られた検討結果である格支配による動詞の分類表を効果的に活用することによって、初級基礎文法から中級文法へのつながりとなる授業をより改善していく方向性を探り当てることができたと思っている。今後もこのような文法項目提示を含む検討、考察を間断なくつづけていくことが有用かつ必要なことと考えている。

注

- 1) 動詞の格支配のほかに、mit dem Auto, durch den Park といった前置詞の格支配、Ich bin damit zufrieden. Die Mutter ist stolz auf ihr Kind. といった形容詞の格支配、der Weg zum Bahnhof, die Antwort auf eine Frage といった名詞の格支配がある。
- 2) 動詞の分類法としては、独立動詞・助動詞、独立動詞は、人称動詞・非人称動詞・再帰動詞、人称動詞は、自動詞・他動詞と分け、その後、文型を想定する方法があるが、ここでは、まず、英語の 5 文型に似たようなドイツ語の文型を案出できないかという発想が原点になっている。Duden 文法は、独自の方法によって、2006 年版では、34

の型を設定しているが、それを 2・3・4 格支配と前置詞格支配を使って分類しようとしたものが、この論の発端をなしている。Duden (2006) S.939ff.

- 3) 小林 (2005) S.145f.
- 4) 動詞の格支配とは、その語句がなければ文の意味や動詞の意味が完結しない必須の要素や語句として、特定の動詞と結び付いて出現する 2 格・3 格・4 格、そして前置詞格の目的語を当該の動詞が必要としていることである。
- 5) 初級基礎文法において、helfen や fragen など、1 格 (～は、～が) 2 格 (～の) 3 格 (～に) 4 格 (～を) の日本語に対応しない動詞があるが、初級から中級にかけての動詞の学習において、この日本語の〈は・が・の・に・を〉の法則に合わない動詞の勉強に力点が置かれる。前置詞格支配の動詞はその典型的なケースとして現れ、前置詞格支配の動詞を確実に学ぶことによって学習上の効果が得られる可能性が大きい。
- 6) 無格支配の動詞は、目的語を取らない動詞である。2 格・3 格・4 格・前置詞格目的語のいずれも必要としないで意味が完結し、文を完成させることのできる動詞のことである。
- 7) 意外に思うかもしれないが、Er gilt als ein bedeutender Gelehrter. の gelten も無格支配の動詞に属することになる。斜格 (2 格・3 格・4 格) 目的語と前置詞格目的語以外の語句は、目的語とは見なさないからである。
- 8) 3 格の再帰代名詞を伴う erlauben などの再帰動詞は、3 格の再帰代名詞と動詞で述部をつくるが、通常、再帰代名詞以外の目的語なしで文の意味を完結することはない。したがって、sich³ 4 格 erlauben と再帰代名詞以外の目的語 (この場合は 4 格目的語) を支配するか、Ich erlaube mir, zehn Minuten später zu kommen. の例の

- ように、不定詞と共に用いられる。いずれにしろ、通常、3格の再帰代名詞を内包する無格支配の再帰動詞は存在しないことになるので、ここでは、論述の対象から外してある。なお、この論文では、再帰動詞の文法項目に限らず、全般的に、初級から中級文法にかけての学習と言っても、初級基礎文法中心の学習者向けの文法項目提示を目指しているために、その応用とも言える不定詞構文や目的語文などの副文を伴う複文の文型は、動詞の格支配という学習目的を明確にするために、意図的に、論述の対象から外している。
- 9) 動詞の格支配のあいまいさについて述べると、例えば、Er setzt sich. 〈彼はすわる〉は確かに意味が一応完結していて、特に必須な語句を付け加える必要はない。しかし、Er setzt sich auf den Stuhl. 〈彼は椅子にすわる〉という文で、auf den Stuhlを必須の文成分と見るかどうかについては、auf den Stuhlが追加された段階では、通常、必要な語句であるという感覚を持つことが多いと考えられる。fahrenという動詞も、Er fährt. でも文としては一応完結しているが、Er fährt nach Tokio. と nach Tokioのような方向を表現する語句が必要と言えなくもない。このような意味で、前置詞格目的語に限らず、格支配の厳密な定義は困難な場合が多々ある。ここでは、あくまで学習者にとって有効で有意義な学習法であるかどうかを肝要であり、格支配による動詞の分類は、基礎文法学習項目提示の改善につながるものと考えている。
- 10) sich vorstellen には、
Darf ich mich vorstellen?
Ich kann mir die Szene vorstellen.
のように sich⁴ vorstellen 〈無格支配〉と sich³ 4格 vorstellen 〈単格支配〉の両ケースがある。
- 11) Ich gedenke seiner. は
Ich gedenke meiner. に、
Er lobt mich. は
Er lobt sich. に、
一般動詞（人称動詞中心）は、大抵の場合、再帰動詞に変形できる。したがって、本来的な再帰動詞と一般の人称動詞の区別は困難なのであるが、ここでは、初級基礎文法で標準的に扱う場合を想定して、一般動詞（人称動詞中心）と再帰動詞を区別している。
- 12) gefallen や gehören などの動詞は、人称動詞中心の一般動詞の中で、もの・ことを表す1格の名詞・代名詞が人を表す3格の名詞・代名詞の気に入る、のもの（所有物）である、という意味をもち、もの・ことを表す名詞類が主語になるということで、いわゆる一般の人称動詞とは異なる独立動詞である。
- 13) Es ist mir kalt. や Es friert mich. が Mir ist kalt. や Mich friert. となった場合の考え方は、やはり、非人称動詞の変形したもので、Mir ist kalt. や Mich friert. が、文章中では主語に近い感覚があっても、形の上では、mir と mich（3格と4格）なので、非前置詞格支配で単格支配の非人称動詞ということになる。
- 14) 前置詞格目的語をつくるのに比較的よく使われる前置詞を挙げておく。
an / auf / in / unter / vor / über
- 15) ヘンチェル・ヴァイト（1995）S.357の前置詞格目的語と副詞的規定語との区別については、Ich warte auf den Brief. 〈前置詞格目的語〉 Ich muss noch auf den Brief schreiben. 〈副詞的規定語〉であるが、Ich wohne in _____. の in _____ の部分をどう扱うかというデリケートな問題もある。Ich wohne hier. の場合は in _____ は必要ないからである。このような具体例が結構あるので、完全に決定できない場合

- も少なくない。この論文では、出現した言説文を基にして、それが、格支配として機能しているという観点に立つことができる場合には、前置詞格として扱っている。
- 16) leiden は、an [3格]、unter [3格] の前置詞格目的語を選択的に支配する単格支配の動詞であるが、Sie leiden Not. の [4格] leiden のケースのように、非前置詞格で単格支配の動詞にもなりうる。このように特定の動詞の格支配を決定できないことは多い。
- 17) bestehen は、auf [3格]、aus [3格]、in [3格] の前置詞格目的語を選択的に支配する動詞であるが、Er besteht die Prüfung. (4格目的語) の [4格] bestehen のケースのように、非前置詞格で単格支配の動詞にもなりうる。このように、特定の動詞の格支配を決定できないことは多い。
- 18) Ich interessiere mich für Musik.
Er bemüht sich um eine Stellung.
の sich⁴ für [4格] interessieren と sich⁴ um [4格] bemühen も 3-2 の前置詞格支配で単格支配の再帰動詞に属するが、Sie freut sich an den Blumen. Ich freue mich auf das Konzert. Er freut sich über das Geschenk. の sich⁴ an [3格] / auf [4格] / über [4格] freuen のケースのように、複数個の前置詞と選択的に結び付く前置詞格支配の動詞もある。また、Das freut mich の [4格] freuen のケースのように、非前置詞格支配で単格支配の動詞、いわゆる他動詞として現われる場合もあり、特定の動詞の格支配を確定するのは、厳密に言えば、不可能なことが多い。この論文では、初級基礎文法から中級文法への橋渡しとなる学習に役立つ文法項目概念として、動詞の格支配の重要性と教育的意義を強調している。
- 19) 再帰動詞と非人称動詞の混合形である
Es handelt sich um seine Zukunft.
の Es handelt sich⁴ um [4格] の扱いは、再帰動詞と非人称動詞の中間形態ではあるが、3-3 に属する特殊なケースと見なす。
- 20) 両格支配の動詞の二つの目的語の組み合わせには、2格目的語と3格目的語、2格目的語と前置詞格目的語の組み合わせは現れない。つまり、2格と3格支配の動詞および2格と前置詞格支配の動詞というのは存在しないということである。
- 21) lehren と kosten は、4-1-3 の4格目的語を二つ支配する動詞と言えるが、Man nennt ihn einen Narren. は S+V+O+C の文型をなして、4格目的語と4格補語の関係になっている。この論文での格支配による動詞の分類においては、ごく単純に、4格の名詞(代名詞)を二つ必要とする動詞を、4格目的語を二つ取る動詞として、目的語の定義を拡張して使用している。文の意味の実際よりも、文中の名詞類の形式的有り様に力点を置いたのである。そして、同時に、格支配による動詞の分類の単純化をはかっている。いずれにしろ、基本的姿勢は以上の通りである。
- 22) ほかに、
Ich beklage mich bei ihr über den Lärm.
の sich⁴ bei [3格] über [4格] beklagen などの動詞がある。
- 23) Es gefällt mir in München.
の in München を前置詞格目的語と見なすかどうかは難しい問題であるが、この論文では、できるだけ単純に、必要な語句と感じるのであれば前置詞格として扱うことにする。いずれにしろ、厳密には確定できないのであるから、形がある程度整っていれば、目的語として扱う方向をとりたいと考えている。
- 24) Es ärgert mich über ihn. は、
Über ihn ärgert mich.
と変化しても、5-3-2 の4格と前置詞格支配の非人称動詞と見なす。

参 考 文 献

- Ágel,Vilmos : Valenztheorie. Tübingen 2000.
- Duden : Die Grammatik. Mannheim 1995.
- Duden : Die Grammatik. Mannheim 2006.
- Engel , Ulrich : Deutsche Grammatik. Heidelberg 1996.
- Hall,K./Scheiner,B.: Übungsgrammatik für Fortgeschrittene. Deutsch als Fremdsprache. Augsburg. 2001.
- Helbig,G./Buscha,J.:Deutsche Grammatik. Ein Handbuch für den Ausländerunterricht. Leipzig 1975.
- Liebsch,H /Döring ,H.: Deutsche Sprache. Handbuch für den Sprachgebrauch. Leipzig 1976.
- Schulz,D./Griesbach,H.:Grammatik der deutschen Sprache. München 1972.
- Schulz,H./Sundermeyer W.:Deutsche Sprachlehre für Ausländer. München 1965.
- Schwarz,H.-Gerhard: Deutsche Grammatik. Köln 1985.
- Wahrig : Deutsches Wörterbuch. München 1972.
- ハラルト・ヴァインリッヒ著／脇坂豊編：テキストからみたドイツ語文法（三修社）2003.
- E. ヘンツェル・H. ヴァイト著／西本美彦・高田博行・川崎靖訳：ハンドブック・現代ドイツ文法の解説（同学社）1995.
- ヴィルヘルム K. ユーデ著／稲木勝彦訳：ユーデ・基本ドイツ文法（三修社）1966.
- 岡田公夫・清野智昭：基礎ドイツ語 文法ハンドブック（三修社）2002.
- 川島淳夫ほか：ドイツ言語学辞典（紀伊國屋書店）1994.
- 川口 洋：ドイツ語作文のポイント（朝日出版社）1969.
- 国松孝二ほか：独和大辞典〔コンパクト版〕（小学館）1990.
- 小林繁吉：ドイツ文法概念について（八戸工業大学紀要第24巻）2005.
- 在間 進：〔改訂版〕詳解ドイツ文法（大修館書店）2006.
- 在間 進ほか：新アクセス独和辞典（三修社）2004.
- 相良守峯：ドイツ語学概論（研究社）1950.
- 相良守峯：ドイツ文法（岩波書店）1971.
- 桜井和市：改訂ドイツ広文典（第三書房）1995.
- 佐藤通次：ドイツ広文典（白水社）1970.
- 関口存男：関口・初等ドイツ語講座〈中巻〉（三修社）1982.
- 関口存男：関口・初等ドイツ語講座〈下巻〉（三修社）1982.
- 関口存男：関口・新ドイツ語大講座（三修社）1974.
- 武田昌一・吉田次郎：現代ドイツ文法（白水社）1969.
- 田中康一：新講ドイツ文典（南江堂）1956.
- 常木 実：わかりやすいドイツ語入門（朝日出版社）1977.
- 常木 実：標準ドイツ語〈新訂版〉（郁文堂）1993.
- 日本独文学会ドイツ語学委員会：ドイツ語教育の基本的諸問題 1978.
- 中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧：改訂版必携ドイツ文法総まとめ（白水社）2003.
- 根本道也ほか：新アポロン独和辞典（同学社）2007.
- 信岡資生ほか：クラウン独和辞典（三省堂）2005.
- 橋本文夫：詳解ドイツ文法（三修社）1971.
- 浜崎長寿ほか：ドイツ語文法研究概論（大学書林）2000.
- 宮内敬太郎：速習現代ドイツ語（郁文堂）1990.
- 三好助三郎：新独英比較文法（郁文堂）1977.
- 山川丈平：やさしいドイツ語入門（郁文堂）1979.
- 義則孝夫・吉田正勝：大学最新ドイツ語教本（三修社）1967.